

科目名	日本史 B	使用教材	教科書 「詳説日本史 B」 (山川出版社) 副教材 詳説日本史学習ノート上 (山川出版社)
単位数	3年次：2単位 (4単位のうち) ベーシック (選択必修)	評価方法	定期考査・小テスト 授業への取り組みの様子 (参加の仕方・忘れ物など) 提出物 (課題・プリント・ノートなど)

学習到達目標

- ◆ 日本史の流れや時代の特色を、世界史とのかかわりや、政治・経済・社会・文化などの関連性を考えながら、総合的に調べ、理解することを通して、自国の文化と伝統の特色について認識を深める。それをもとに広い視野に立った思考力を身につけ、日本の国民としての自覚と、国際社会に生きる日本人としての資質を養う。
- ◆ なぜそのようなことをしたのか、なぜそのようなようになったのかなど、歴史的事象の原因や理由、その結果や影響を考えることによって、わが国の歴史について認識を深め、歴史的思考力や洞察力を養う。
- ◆ 歴史がどのように流れ、先人がその中でどのような努力を重ねてきたかを学ぶことにより、今の自分の生き方を見つめ、いかに生きるべきかを考える材料にする。
- ◆ 様々な歴史的事象への興味や関心を深めながら歴史の学習法の基礎を身につけ、生涯にわたって自ら学び続ける基盤をつくる。

★授業について

- ・授業は主に基本事項の確認と流れをつかむ学習です。内容によっては調べ学習やレポートを課す場合があります。また、授業だけでは絶対に定着しませんので、以下のような方法で自主学習、家庭学習を行ってください。
- ・学習ノートは()に答えを書き込まないこと。教科書で太字となっている重要語句や重要な史料にはアンダーラインを引くなどして整理しましょう。
- ・授業中に解説した内容はこまめにメモをとり、参考にしてください。また、ノートの穴埋めと板書を写すだけでなく、基本的には授業で学習した内容はその時間のうちに覚えるつもりで積極的に取り組みましょう。
- ・毎時間、授業のはじめに基本語句の小テストを行います。教科書の太字部分や問題演習で繰り返し出題される語句は用語問題集にもチェックを入れておきましょう。

★自主学習について

日本史は暗記科目と思われがちですが、暗記するだけでは身につけません。むしろ、ある出来事が起こった時代背景や流れを理解することで自然に頭に入っていく場合が多いと思います。①自分なりに整理して独自のまとめノートを作ること、②教科書を繰り返し読むこと、③歴史に関する本を読むことにより、知識と理解が深まります。また、歴史用語は必ず漢字で書きましょう。

◎予習

教科書を読む。

◎復習

教科書を参考に、要点整理ノートの()にあてはまる語句を調べて解答欄に記入する。

重要語句を確認しながら教科書の範囲を2回どおり読む。

*以上の予習・復習は、短時間でもよいので授業の前後に必ずすること。次回の授業で確認のための小テストを行います。

★その他

最近では歴史を題材にしたドラマやテレビ番組も多く放映されています。歴史への興味を深めるために積極的に見

てみましょう。

★大学入試について

国公立大学入試センター試験では、単なる歴史的事象の暗記だけでは得点できません。時代的位置づけや因果関係を理解しておかなければなりません。史料問題や図・写真を利用した問題も必ず出題されていますが、教科書に載っているものを知っていればほとんど問題はあります。センター試験は教科書を確実に学習することが対策につながります。

国公立の2次試験や難関の私立大学では論述形式で出題されることが多くなりますので、暗記に終わることなく歴史の因果関係を理解しておくことが必要です。私立大学ではかなり細かい事象に関する問題もありますが、センター試験のようなマーク式の出題も多いので、まずは教科書で基本をおさえておくことが大前提です。

★就職試験について

一般常識で基本的な日本史の知識が問われます。また、歴史上の人物には優れた考えや思想を持った人も多いため、知識として覚えておくことで面接の話題や作文などでも役立ちます。

学習の計画（育育期） ●要点 ◆学習習慣・学びの発展 *心の成長

月	週・時	単元	目標	学習の要点
4		4-4 蒙古襲来と幕府の衰退 4-5 鎌倉文化 第4章のまとめ 単元テスト：第4章	宋・元など東アジア世界との かかわりが、政治・経済・鎌 倉文化に及ぼした影響を理解 する。 日明貿易など東アジア世界と の交流、地域の動向、庶民の 台頭を考察することを通じ て、守護大名、町と惣村、一 揆、下剋上など、中世社会の 多様な展開を理解する。	●元寇と幕府の滅亡 ●鎌倉文化の特徴と新仏教 *宗教の役割について考える
5		5-1 室町幕府の成立 5-2 幕府衰退と庶民の台頭 5-3 室町文化 5-4 戦国大名の登場 第5章のまとめ 単元テスト：第5章	禅宗文化の伝来が武家文化の 進展に果たした役割、武家文 化と公家文化の関わり、庶民 文化の芽生えを理解する。	●建武の新政 ●南北朝の動乱と応仁の乱 ●一揆 ●北山文化と東山文化 ◆日本文化のよさについて考える *心の豊かさを追求する ●戦国大名の統治 ◆戦国武将の生き方に学ぶ *人間にとって最も大切なもの は何かを考える
6		6-1 織豊政権 6-2 桃山文化 6-3 幕藩体制の成立 第6章のまとめ 単元テスト：第6章	戦国大名の領国支配を各地域 の実情と関連づけて理解す る。 織豊政権・幕藩体制の特色と 推移、社会と文化の動向を、 ヨーロッパ諸国のアジア進出 に伴う国際関係の変化・影響 と関連づけて理解する。特に 石高制・兵農分離・鎖国を原 理とする幕藩体制の確立を、	●ヨーロッパ人の来航 ●天下統一の過程 ●桃山文化の特徴 ●江戸幕府の成立 ●江戸時代の身分秩序 ●鎖国 *人種・身分差別について考える
7		7-1 幕政の安定 【前期考査】		

8	課題研究 1 歴史上の人物について調べる 7-2 経済の発展 7-3 元禄文化 第7章のまとめ 単元テスト：第7章 授業評価各自の反省	織豊政権の統一政策と関連づけて理解する。 幕府・諸藩による文治政治のもとで、農業や商工業など、諸産業が相互に関連しながら発展していることを理解する。また、町人文化の形成を都市の経済的な繁栄や町人の社会的台頭と関連づけて理解する。	◆自分で設定したテーマを追求し、知識を整理する ●元禄時代はどのような時代か ●正徳の治とは ●各種産業の発達 (農業・手工業・運輸・交通など) *人々の知恵や生活を豊かにするための工夫について学ぶ。豊かさについて考える。 ◆元禄文化の特徴 *前期を振り返り、高校生活のまとめに向けて軌道修正する。
9			

学習の計画 (後期)

月	週・時	単元	目標	学習の要点
10		8-1 幕政の改革 8-2 幕府の衰退 8-3 化政文化 第8章のまとめ 単元テスト：第8章	<ul style="list-style-type: none"> 幕府はなぜ改革をする必要があったのか、幕藩体制の矛盾と近代化への歩みについて考える 開国によってもたらされた政治的・社会的影響について考える。 明治初頭の様々な改革と生活の変化を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●三大改革 ●列強の接近と幕府の衰退 ● 開国と開港後の貿易 ● 江戸幕府の滅亡 ● 明治維新 ● 自由民権運動と立憲政治 ● 条約改正
11		9-1 開国と幕末の動揺 9-2 明治維新と富国強兵 9-3 立憲国家の成立と日清戦争 9-4 日露戦争と国際関係 9-5 近代産業の発展 9-6 近代文化の発達 第9章のまとめ 単元テスト：第9章	<ul style="list-style-type: none"> 二つの戦争を支えた近代産業の発達について理解を深める。 社会情勢の変化を背景とする近代文化の特徴を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 明治時代の経済と文化
12		10-1 第一次世界大戦と日本	<ul style="list-style-type: none"> 「大正デモクラシー」の内容 	<ul style="list-style-type: none"> ● 護憲運動と第一次世界大戦

1	<p>10-2 ワシントン体制</p> <p>10-3 市民文化</p> <p>10-4 恐慌の時代</p> <p>10-5 軍部の台頭</p> <p>課題研究2</p> <p>10-6 第2次世界大戦</p> <p>第10章のまとめ 単元テスト：第10章</p> <p>11-1 占領と改革</p> <p>11-2 冷戦の開始と講和</p> <p>第11章のまとめ 単元テスト：第11章</p> <p>12-1 55年体制</p> <p>12-2 経済復興から高度成長へ</p> <p>13-1 経済大国への道</p> <p>13-2 冷戦終結と日本社会の動揺</p> <p>【後期考査】 授業評価・各自の反省</p>	<p>を多角的に考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 協調外交について理解を深める。 ・ 昭和初期の恐慌の中で、政党政治と協調外交が終わっていく様子を理解する。 <p>偉人の生き方から学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第二次世界大戦勃発の背景となる国際関係を理解する。 ・ 太平洋戦争の原因・経過・結果を考察する。 ・ 終戦後のアメリカ軍による占領統治と民主化政策の内容を理解する。 ・ 戦後処理問題から起こる「冷戦」について理解を深める。 ・ 経済の復興と経済成長について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ワシントン体制 ● 大正デモクラシーと文化 ● 憲政の常道と満州事変 <p>◆ 調べ学習・レポート作成と発表</p> <ul style="list-style-type: none"> * 様々なものから学ぼうとする前向きな態度 ● 軍部の台頭 ● 日中戦争 ● 第二次世界大戦 ◆ 修学旅行（沖縄）での体験とリンクさせ、平和についての意識を高める ● 太平洋戦争と終戦 * 歴史を作ってきた人たちのおかげで今があることを確認する ● 民主化の諸政策 ◆ 現代社会・民主主義（関連） ● 冷戦の開始と講和 ◆ 拉致問題などの問題に目を向ける ● アメリカとの協調と55年体制の成立 ● 安保体制 ● 高度経済成長とそのひずみ ● 国際社会における日本 ● 1970年代の日本 ● 1980年代の日本 ● 1990年代の日本 * 生涯学び続ける姿勢を身につける * 課題を発見し、解決のために努力を惜しまない前向きな心を育てる
---	---	--	---

科目名	社会科 世界史B	使用教材	教科書 『詳説世界史B』（山川出版社） 副教材 『詳説世界史学習ノート下』（山川出版社）
単位数	3年：2単位 ベーシックコース	評価方法	定期考査，単元テスト 授業への取組み（積極的な学習態度や取組み等） 課題の提出

学習到達目標

- ・世界の歴史の大きな枠組みと流れを，我が国の歴史と関連付けながら理解する。
- ・文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

★授業について

世界史の教科書は，同時代の各地域のつながりを中心に記述してあるので，日本史の縦に流れていく歴史とは異なります。今自分が勉強しているのはどの地域で，何世紀頃の話か，ということを常に念頭に置いて授業を受けましょう。

★自主学習について

世界史を楽しく学べるようになるには，先ずはいろいろなものに好奇心を持つことが必要です。マンガ・小説・テレビ等，歴史に触れる機会を増やしましょう。

世界史は暗記が大きなウェイトを占めます。自分のノートを作り世界史の用語を書いて覚えましょう。何度でも繰り返すことがポイントです。

★評価について

評価の観点

- ①歴史について興味・関心を持ち，これを追求しようとする意欲や姿勢があるか。（関心・意欲・態度）
- ②現代の諸課題を歴史的・系統的な視点から思考し判断する力があるか。（思考・判断）
- ③歴史に関する諸資料をさまざまな方法で収集し，有用な情報を主体的に選択し，活用できるか。（技能・表現）
- ④世界の各地域及び時代を歴史的事象と関連づけて理解し，その知識を身に付けているか。（知識・理解）

学習の計画

●要点 ◆学習習慣・学びの発展 ＊心の成長

月	週・時	単元	目標	学習の要点
4		第12章 欧米における近代国家の発展	産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立など、18世紀後半から19世紀にかけてのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革に触れ、産業社会と国民国家の形成を理解する。	◆自ら家庭学習の計画を立て、継続することができる ●ウィーン体制 ●ヨーロッパの再編 ●アメリカの合衆国の発展 ●19世紀欧米の文化
5		第13章 アジア諸地域の動揺	世界市場の形成、ヨーロッパ諸国のアジア進出、オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革に触れ、19世紀のアジアとヨーロッパの関係を理解する。	●オスマン帝国支配の動揺とアラブのめざめ ●南アジア・東南アジアの植民地化 ●東アジアの動揺
6		第14章 帝国主義とアジアの民族運動	ヨーロッパ諸国によるアジア・アフリカの植民地化をめぐる競争とアジア・アフリカの対応に触れ、19世紀後期から20世紀初期の世界の支配・従属関係を伴う一体化と社会の変容を理解する。	●帝国主義と列強の展開 ●世界分割と列強対立 ●アジア諸国の改革と民族運動
7		第15章 二つの世界大戦	二つの大戦と総力戦、ロシア革命とソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現と全体主義、世界恐慌と資本主義の変容、アジアの民族運動などに触れ、20世紀前半の世界の動向と社会の特質を理解する。	◆調査試験に対する姿勢や学習の仕方 を考えることができる ●第一次世界大戦とロシア革命 ●ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 ●アジア・アフリカ民族主義の進展 ●世界恐慌とファシズム諸国の侵略 ●第2次世界大戦
8		第16章 冷戦とアジア・アフリカ世界の自立	米ソ冷戦の展開、アジア・アフリカ諸国の独立と戦争、平和共存の模索と多極化の進展に触れ、冷戦期の世界の動向を理解する。	●東西対立の始まりとアジア諸地域の自立 ●冷戦構造と日本・ヨーロッパの復興 ●第三世界の自立と危機 ●米・ソ両大国の動揺と国際経済の危機
9		第17章 現代の世界	市場経済の世界化、東欧諸国の民主化と冷戦の終結、ソヴィエト連邦の解体、アジア経済の急成長、地域統合の進展などに触れ、1970年代以降の世界と日本の動向を理解する。 核兵器問題、人種・民族問題、第二次世界大戦後の主要な国際紛争など、現代の国際問題を歴史的観点から追究し、国際協調の意義と課題を考察する。 情報化、先端技術の発達、環境問題などを歴史的観点から追究し、科学技術と現代文明について考察する。 国際政治、世界政治、現代文明などにおいて人類の当面する課題を歴史的視点から追究し、これからの世界と日本を展望する。	●冷戦の解消と世界の多極化 ●ソ連・東欧社会の解体とアジア圏社会主義の転換 ●第三世界の多元化と地域紛争 ●現代文明 ※生涯にわたって学ぼうとする態度が育っている
10				
11				
12				
1				

科目名	社会科 科目：地理B	使用教材	教科書 『詳説新地理B』（二宮書店） 副教材 『新高等地図』（東京書籍）
単位数	3年生：2単位 ベーシック3コース（選択）	評価方法	定期考査，単元テスト 授業への取組み（積極的な学習態度や取組み等） 課題の提出

学習到達目標

- ・現代世界の地理的事象を系統地理的，地誌的に考察し，現代世界の地理的認識を養う。
- ・地理的な見方や考え方を培い，国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

★授業について

教科書だけでなく，地図帳・地球儀を使用して「地理」に関する題材や最近の出来事を地理的に取り上げる。国際社会に生きる日本人として役立つ地理的技能や知識を身につけるとともに，地理的な見方・考え方を身につけることを目的とする。

★自主学習について

予習…次の時間に学習する教科書・資料を読み分らない所を調べておく。

復習…学んだことを忘れないように，宿題のプリントでポイントを確実に理解する。

★評価について

評価の観点

①現代世界の地理的事象について関心を高め，主体的，意欲的に課題を追求したか。

よりよい国際社会の実現に向けて，主体的に行動する態度が身に付いたか。（関心・意欲・態度）

②現代世界のさまざまな事象を地理的事象としてとらえ，課題を見出すことができたか。（思考・判断）

③地図や統計，画像などの情報を収集，活用することができたか。（技能・表現）

④現代世界の地理的事象について理解し，その知識を身に付けているか。（知識・理解）

月	週・時	単元	目標	学習の要点
4		第3節 資源と産業	世界の農業地域の特色を自然的条件や社会・文化的条件との関連性を通して理解し、水産業とともに地域の人々の生活を形成してきたことに気づく。	◆自ら家庭学習の計画を立て、継続することができる ●農業からみた世界
5			エネルギー・原料資源の生産・分布の偏在性に気づき、生産国と消費国それぞれの産業構造の特色の傾向とエネルギー・原料資源の国際的流通の関係を理解する。	●エネルギー・原料資源からみた世界
6			工業地域の形成に共通する立地条件に気づき、条件の変化による立地移動を考察するとともに、世界の工業生産分布の地域性を理解する。	◆考査試験に対する姿勢や学習の仕方を考えることができる ●工業からみた世界
7				
8				
9				
10		第4節 都市・村落と生活文化	村落・都市の機能と立地・形態について理解し、世界の村落や都市の形成・発達や分布に共通性と異質性があることに気づく。地域の文化の構成要素として宗教と言語の分布について理解し、文化の複雑性に気づく。また、伝統的衣食住の地域性と国際化に伴う変容について理解する。	●都市と村落からみた世界 ●衣食住からみた世界
		第Ⅲ章 現代世界の諸課題の地理的考察	資料・統計を活用し、通信の発達と現状を理解するとともに、それらがグローバル化の進展に果たす役割について考察する。	●交通・通信によって結ばれる世界
		第3節 国家間の結びつきと課題	資料・統計を活用し、交通の発達、世界貿易の拡大、労働力や資金の国際的移動の現状を理解するとともに、それらがグローバル化の進展に果たす役割について考察する。	●貿易によって結ばれる世界
11			国際連合の役割と国家群の現状と課題を理解し、それらがグローバル化の進展に果たす役割について考察する。	●国家間の協力関係
		第4節 近隣諸国と日本	自然・文化・産業・都市について日本との共通性・異質性の視点から、韓国の地域的特徴を理解し、近隣諸国としての日韓関係のあり方について考察する。	●韓国
12			人口・自然・産業について日本との共通性・異質性の視点から、中国の地域的特徴を理解し、近隣諸国としての日中関係のあり方について考察する。	●中国
1		第5節 環境エネルギー問題の地域性	エネルギー・環境問題の地域性と相互関連性について考察し、持続可能な社会への糸口と国際的な取り組みの重要性を考える。	●世界の環境問題 ●世界のエネルギー問題
		第6節 人口・食糧問題の地域性	資料・統計を活用し、発展途上国と先進国の視点から、人口・食料問題の地域性について考察するとともに、問題解決の糸口を考える。	●世界の人口問題 ●世界の食糧問題
		第7節 民族・領土問題の地域性	民族・領土問題の発生地域の共通性と異質性に着目し、その背景を考察するとともに、民族・領土問題の複雑さと問題解決に果たす国際機関の重要性に気づく。	●世界の民族問題 ●領土と領土問題 ※生涯にわたって学ぼうとする態度が育っている

